

選挙区・杉尾氏必勝、比例は共産党躍進へ



発行：日本共産党
伊那市委員会
伊那市狐島3879
TEL：72-2465
ホームページ
「JCP上伊那」



7月参院選 上伊那で野党共闘へ！

安倍暴走政治をくい止め、国民の暮らしを守る政治へ変えるために、7月の参院選で定員1名の長野選挙区での野党共闘候補・杉尾ひでや氏の勝利は決定的に重要です。

4月19日、上伊那の共産党、民進党、社民党、市民団体の代表者らが会議を開催し、県レベルで方針化された①3野党と市民共同の街頭宣伝に取組む②杉尾氏の全戸ビラを作成する③杉尾氏と著名人のポスターを作成する④小選挙区に杉尾事務所を開設し、市民共同コーナーを作る

⑤演説会や集会要請に応え、挨拶するの5点を確認。運動を発展させると同時に、「杉尾ひでや氏を応援する上伊那の集い」を6月2日午後7時から、伊那文化会館で予定し実行委員会を結成しました。



昨年9月19日、戦争法が強行。その後九条の会の会員らが毎月19日に戦争法廃止を求めスタンディングに取り組んでいます。(竜東橋北交差点)

杉尾ひでや氏のあいさつ



私は35年間、テレビ報道の最前線に立ってきました。この間、日本の政治を外からつぶさに見てきましたが、今ほど強い危機感を感じることはありません。

問答無用の安民法制の強行、相変わらずのバラマキ・将来世代への先送りの財政、空虚なスローガン政治と、納得できないことが相次いでいます。

今こそ傍観者ではいられない。報道マンとして政治を伝える立場から、人々に伝わる政治を実践しようと、

私は35年間、テレビ報道の最前線に立ってきました。この間、日本の政治を外からつぶさに見てきましたが、今ほど強い危機感を感じることはありません。

問答無用の安民法制の強行、相変わらずのバラマキ・将来世代への先送りの財政、空虚なスローガン政治と、納得できないことが相次いでいます。

今こそ傍観者ではいられない。報道マンとして政治を伝える立場から、人々に伝わる政治を実践しようと、

衆院長野5区候補に有坂ちひろさん

共産党長野県委員会は7月の参院選と同時に衆院選が予想される中、26日記者会見し、衆院選長野5区予定候補に有坂ちひろさん(41)を発表しました。



5区に立候補を表明した決意を語る有坂氏(長野日報より)

強い決意をもって国政にチャレンジすることを決断しました。

安倍政権の戦後の民主主義体制や立憲主義、平和主義を否定する政治がこれ以上続くことを認めることはできません。このまま改憲が強行されれば、国民の基本的な人権や報道の自由は根本から立ちゆかなくなってしまう。

私は野党統一候補として、安民法制を撤回し、立憲主義を回復、安倍政権の改憲を阻止するために、全力を挙げて立ち向かう決意であります。

この長野県から皆さまとともに、日本の政治を変える大きなうねりを起こすために、全力を挙げて頑張り抜きますので、今後、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。(参院長野選挙区予定候補)

地蜂

「災害は忘れた頃にやってくる」と言われている。東日本大震災から5年。原発事故も解決されず、未だに17万人もの人が避難生活をおくる中、九州熊本地震が発生しました。またも多くの人が避難生活を強いられることとなりました▼世界有数の地震や火山発生国のこの日本の現状を見る時、莫大な税金を投入する東京オリンピック・リニア・原発再開などを推進することが重要とは思えない▼国民には消費税増税・年金支給額引き下げ、かたや、大企業には減税、沖縄辺野古に米軍基地建設を進め、憲法違反の安民法制「戦争法」までも強行採決した安倍自公政治に恐ろしさを感じてなりません▼危険なオスプレイは米軍基地に配備しないでの国民の願いも聞かず、災害派遣にチャンス到来とオスプレイ導入依頼を了承する安倍内閣。自国の国民は自国の手で救う事が出来ない政治体制自体が問題です▼勿論、他国の助けが必要なのはお願いする事は大切な事、しかし、自らの手で国民を救えないで国が存在できるだろうか▼憲法9条のおかげで守り通して来た戦争しない日本。主権在民の精神が、今、問われています。戦争法を廃止し、主権在民を守り、災害に強い日本にする政治こそ必要な時です。(H・I)

安倍政権NO！力あわせ未来ひらく

3月29日、日本を戦争する国につくり変える安保法制＝戦争法が施行されました。憲法をふみにじって、いつでも戦争できる国になってしまいました。これに、伊那市でも戦争法を廃止し、憲法9条を守り国民を尊重する政治をめざす取り組みが、いつそう強められています。

**2000万署名
次々、目標突破！**

今、戦争させない・9条壊すな！総がかり実行委員会や共産党などが「戦争法廃止を求める統一署名」に取り組んでいます。

伊那市では第1次締切の4月25日現在6963人で目標の62、3%。東春近、西箕輪、手良、富県地域で目標



◇憲法制定70周年

憲法記念日のつどい・講演会
「今、日本国憲法を考える」

—憲法の番人
元最高裁判所
裁判官が語る—



講師：
那須弘平さん
(弁護士・伊那市ふるさと大使)

日時：5月3日（火・祝日）
午後2：00～4：30

(開場1:30)

会場：伊那文化会館大ホール
託児所あり（要申込・無料）

★協力券500円（高校生以下無料）

※当日会場にても購入可

♡ 北原明さん、曾我逸郎さん
小幡久美子さん、山崎恭子さん
も発言します。

憲法学習に確信

西箕輪九条の会

17日、西箕輪の有報堂で地域の九条の会や医療生協支部などが、「改憲問題の現段階と私たちの課題」と題した学習会を行い、16人が参加しました。

講師の野口俊邦信州大学名誉教

市民に喜ばれるバス運行を バス検討委が党市委員会に答申

「市街に出るのにバス代が1600円もかかる。中央病院に行くには乗り換えと更に料金がかさむ」との高遠や長谷の住民からの訴えに、共産党伊那市委員会が、2年前の市議選で「200円バス実現を」と公約。その後「200円バス検討委員会」（前沢啓子委員長）を設置。「地域交通は行政に責任と義務がある」ことを学び、200円バスを走らせている木曾町の視察、無料バスを実施している自治体の研究、市民の要望と実態調

査、市内のバス試乗などに取り組んできました。

「委員会」は3月末に「調査や活動のまとめ」を党伊那市委員会に答申。それによると行政への提案として交通弱者の負担軽減のため、高遠や長谷から中央病院への無料バスの試験運行の実施や、市がバス会社と協議し市民が求める交通網の確保などを求めています。同時に、市の姿勢を変ええるために市民と共同して取り組むことが重要としています。

授は、「戦争か平和か」「個人の尊厳の擁護か蹂躪か」が問われていることや集団的自衛権行使容認、戦争法決定、明文改憲などについて

て日本国憲法と自民党の改憲草案を対置し、安倍政権が狙っている戦争への道とこれにママの会やシルズ、九条の会など、平和を求めたたたかっている全国の取り組みの様子を紹介しました。

参加者からは「現憲法のもとで安倍政権は壁に突き当たっている」「戦争法廃止や平和運動を強めよう」などの発言が相次ぎました。

「会」では、宣伝や署名行動を計画的に推進。5月3日午後2時文化会館での那須弘平さんの講演「今、日本国憲法を考える」の参加券の普及に全力をあげています。



4月3日のスタンディングに10人がアピール（手良9条の会）

「新」ごみ処理施設建設の環境保全協定

「燃やさざるを得ない」ゴミの全てを処理する焼却場が伊那市富原の天伯河原に建設されます。建設を巡り賛否両論あり、この8年間の地元住民の苦悩は大変なものでした。

建設同意後は事故防止と情報公開等の基本協定に続き自然生活全般にわたる環境保全協定と地元との約束事の覚え書きを締結しました。

改めて平成27年7月に締結された環境保全協定について明かしたいと思います。骨子は建設

中と供用開始後の周辺環境全般の保全を約束するもの。情報公開と報告を義務付け、周辺6区の代表者各3名とオプザーバー(地元市議会議員)で構成される運営協議会により、監視や問題解決のための協議を年2回、加えて、構成員の申し出で別にも開催出来ます。公害等支障が発生した時は運転を中止することも明記されており、排ガスの国の基準値を超えた場合や新たに設けた「要監視基準値」を越えた場合は直ちに原因究明と対策を講じ再測定を行う。再び超



地震支援と対策

熊本・大分地震に
対し、ご冥福とお見
舞いを申し上げます。

この度の地震災害が、伊那谷の断層と連動する中央構造線の内で起きており、今後予想される南海トラフ地震、川内・伊方原発、リニア南アトンネルへの影響は軽視できません。とりわけ、市の直下を走る伊那谷断層帯による地震は、県危機管理部の予測データによれば最大震度7となり、建物全半壊23、628棟、焼失394棟、死者212人、重軽傷

飯島 光豊

者5、460人、避難者29、296人、断水19、329世帯、停電6、649世帯、電話支障9、226回線とされており、まさにいま、熊本・大分でおきていることと同様です。伊那市は「大規模災害対策業務継続計画」をこれから策定するとしています。一刻も早い対応が求められます。

日本共産党伊那市議員団は、緊急支援を市長に申し入れ、また、アピタ前で党中央委員会が呼びかけた義援金募金に取り組みました。

えた場合には運転を中止するとしています。

今後の課題として「車両交通対策計画」と「緊急対応マニュアル」の確立や周辺環境調査の継続、広範な住民の発言を聞くことが望まれます。

最後に、協定は3年間の準備期間と稼働後30年のもので、その後更新するかどうかについては15年後の地元区との協議で決まるとしています。

(伊那市議・若林 敏明)



産廃処分場反対の署名800万超

「宮田村に放射性物質はいらない」と村民が、廃棄物最終処分場建設に断固反対を掲げ昨年9月に立ち上がりました。

この間「環境を守る会」を中心に多くの団体が、勉強会の開催、看板の設置、のぼり旗の作成と大型店前や団体での署名行動などに取り組んできました。「会」では、署名は8万人を超え、10万の目標を突破し、建設を阻止したいとしています。

上の原今昔 4

水(1) 上の原 中村 光莉

入植当時、近隣の区への編入の申し入れも断られましたが、旧地主が一番多かった日影区が仲間に入れてくれました。

極貧の状態が入植した開拓民にとって、一番の問題は、飲料水でした。天竜川、三峰川の川沿いの平地からは五、六十メートルの高台ゆえ、流れ川は無し、飛行場時代の水道設備は破壊されていて用をなさず、雨水に頼る他ありませんでした。水源を求めて近隣はもとより手良方面までも、手突きでボーリングに行つたものです。子供まで総出で重石を引き上げる綱を引くに行きました。でも、結局、飲料水として保健所の許可が得られる水質と水量を確保することはできませんでした。原始的な井戸掘りの限界だったのです。

この頃、日影区では、仲間に入れたものの、入植を諦めていつ山を下ってくるかもしれないと心配していたそうです。

各戸のバラック同様の粗末な屋根では、十分な雨水を集められず、顔を洗う水にも事欠く状態が続きました。特に1949(昭和24)年の夏は晴天が続く、洗濯はおろか、飯を炊くにも困る大変な事態でした。そこで、一棟だけ残っていた格納庫の大きな屋根に樋をかけて五十メートル位離れた貯水槽まで導く工事を12月までかけて完成させました。

この時以来、学校から帰ると水汲みが日課となりました。水を入れたバケツを天秤棒で担ぎ、家まで二百メートル余りを何度も往復しました。途中で水がこぼれて、家に着く頃には半分くらいになつてしまつていました。

随想

長距離トラックと労組で42年

ますみヶ丘 伊東和夫(79)

宮田村出身で高校卒業後、55年に自動車の整備をしたくて南信定期に入社。会社の命で助手になり自動車学校に行かずに免許を取得、運転一筋の人生でした。寒い朝はクラシクを回して慣らし、雨天時は手動ワイパーを動かすのも助手の仕事でした。50年代後半での大型は4トン車で方向指示器は矢羽式でした。未舗装道路を経木や青果・鶏卵・果物など、時にはヤミ米も積み河口湖経由で東京まで運転し、狭い道では道を譲れというトラブルや、助手席にいた時には自動車と鼻先が衝突したこともありました。

会社と対等に交渉するために労働組合を結成しました。11トン車に大型化、ツーマン運転からワンマンへの合理化などありましたが、現地での休憩を規定時間とらせるなど労働条件を守らせてきました。

大手資本が名古屋鉄道と吸収・合併してできた信州名鉄は、ユニオンショップを盾に、66年全自運労組の島尻豊さんから幹部5名を解雇、裁判闘争になりました。私は東京高裁での証人尋問で不当労働行為を証言しました。13年もの長期裁判で不当労働行為、偽証が次々明らかになり、原告は職場復帰、6000万円支払うという和解を勝ち取りました。

高度成長期の面白い時代を過ごしましたが、近い人が他界して寂しい昨今です。最近の政治は頭にくることばかり。選挙は選ぶ時が大事で、後でいろいろ言っても駄目です。(談)

催し案内

☆ **憲法制定70周年・憲法記念日の集い**
5月3日(火・祝) 午後2時～4時半

伊那文化会館大ホール

*詳細は、本紙2面をご覧ください。

連絡先:

久保田 誼 (78-0823) 春日 幸雄 (79-8781)

横田 美男 (95-4325) 荒 恵子 (74-1255)

☆ **さわやかウォーキング**

5月12日(木) 午前9時50分

長谷道の駅「南アルプスむら」向かいの公園駐車場集合

主催: 上伊那医療生協健康づくり委員会

連絡先: 医療生協組合員センター (79-8702)

☆ **戦争法廃止アピール全国一斉行動**

5月19日(木) 午前7時15分～8時

大萱交差点でスタンディング

☆ **2016年参議院選挙**

戦争法の廃止、立憲主義の回復へ

日本共産党大演説会

5月22日(日) 午後0時30分～3時

松本城公園(松本市) 入場無料

*弁士 市田忠義 党副委員長

たけだ良介さん、唐沢ちあきさん

野党統一候補杉尾ひでやさん

・各地区からマイクロバスが出ます。

連絡先: 党上伊那地区委員会 (72-2465)

小林和人さんを偲ぶ会

元伊那市議会議員小林和人さんを偲ぶ会が4月23日に地元の西箕輪公民館で行われ所縁のある70名が参加し故人を偲びました。

参加者は享年60歳というあまりにも早い故人の旅立ちを惜しみ、生前の活躍をたたえ、故人の遺志を継いで頑張ることを誓い合いました。



会場を埋めた参加者

☆ **杉尾ひでやを応援する**
上伊那市民のつどい

6月2日(木) 午後7時～(6時半開場)

伊那文化会館大ホール

☆ **「脱原発」いな金行動**

毎週金曜日 午後6時～6時半

いなっせ北側広場

主催 さよなら原発上伊那の会

連絡先 医療生協組合員センター

(TEL 79-8702)